

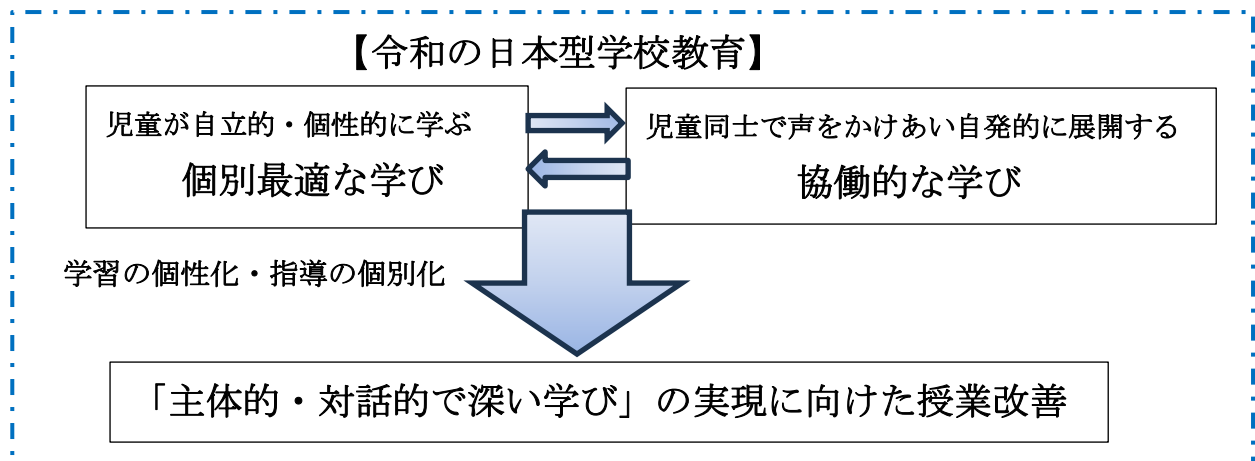
第36回 夏季実践交流セミナー

第5分科会 授業実践発表から学ぶこと

助言者：阿部澄子（全国小学校国語研究会 顧問）

授業実践発表者：園田 禎恵先生（墨田区立第一寺島小学校 主任教諭）

《テーマ》 【物語の不思議をファンタジーの窓で紹介しよう】  
— 4年生「白いぼうし」の実践を通して —



**【国語科における言語活動の充実のための要点】**

**1. 本単元で身に付けたい力を見極める。**

〈児童の実態〉

○既習事項・習得能力

前学年『まいごのかぎ』『三年とうげ』ともに、複数の叙述と結び付けて読んだり、目的をもって交流したりすることに課題が残った。

本単元で身に付けたい力

◎物語を読んでいちばんの不思議ポイントを紹介するために、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。 C(1)エ

**2. 付けたい力にぴったりの言語活動を選定する。**

いちばんの不思議ポイントをペアで交流し、「ファンタジーの窓」で隣のクラスの友達に紹介する。

※児童にとって、心がワクワクする必然性が感じられるもの。

**3. 並行読書教材を選定する。**

※園田先生の資料のP4 ⇒ ・教科書教材と同じようなお話 ・同じ作者

※数か月前から公立図書館と連携し、児童の学習環境を整える。(朝読書の時間などを活用)

※園田先生の資料の P6 ⇒ マトリックス表を作成し、読んだ本にシールを貼っていくように示す。

その後、自分が言語活動のゴールとして紹介したい本には金色のシールを貼るようにしていく。

#### 4. 言語活動のモデルを作成して、提示する。

※園田先生の資料の P4 ⇒ 指導事項を達成していけるように、どこに、どのような内容を記すのかを具体的に大きく示す。

#### 5. 学習計画を立てる。

※園田先生の資料の P5 ⇒ 児童が学習の見通しを立てられるように模造紙に大きく示し、教室側面の上部に貼るなど、単元が終わるまでいつでも見られるように学習環境を整える。

#### 6. 言語活動を達成させるためのペア学習の仕方を提示する。

※園田先生の資料の P5 ⇒ 物語を読んで「自分のいちばんの不思議」をはっきりさせるためのペア学習の仕方を教師がモデルとなり演じたモデル動画と台本を作成し、提示する。(教科書教材版と並行読書版)

※児童がマトリックス表を見て同じ本を選んだ人(金色のシール)と交流する際のキーワード

- ・「いちばんの不思議ポイントを教えて」⇒「私のいちばんの不思議ポイントは、ここなんだ。」と指さし一緒に読む。
- ・「どうしてここがいちばんの不思議ポイントなの?」⇒「自分がそのように考えた根拠となる叙述を示して説明する。」
- ・「確かにそうだね。他にもいちばんの不思議ポイントのわけが分かるところある?」⇒ 関連箇所

児童の主体的な学びを保障するためには  
ここまでの教師の学習環境づくりが最も肝要となる。

#### 7. 児童の主体的なペア学習を見取り、教師は交流の3番目のメンバーになる。

《教科書教材の場合》

※園田先生の資料の P9

- ・拡大全文シートに貼ってある記名付箋紙の箇所に着目し、自分の「いちばん不思議ポイント」と思えるところをはっきりさせるための交流したい相手を選んでいるかの見取りと個別指導。
- ・「ペア学習モデル動画(教科書版)」で示されたキーワードを使って交流しているかの見取りと個別指導。

- ・根拠となる叙述と叙述を線で結ぶなどして、個々の読み取りが確かになっていっているかの見取りと個別指導。

《並行読書教材の場合》

※園田先生の資料の P7

- ・マトリックス表で自分と同じ本を選んでいる人（金色のシール）に着目し、自分の「いちばん不思議ポイント」と思えるところをはっきりさせるための交流したい相手を選んでいるかの見取りと個別指導。
- ・「ペア学習モデル動画（並行読書版）」で示されたキーワードを使って交流しているかの見取りと個別指導。
- ・根拠となる叙述と叙述を結ぶなどして、個々の読み取りが確かになっていっているかの見取りと個別指導。

## 8. 交流してはっきりした伝えたいことを「ファンタジーの窓」に記入する。

※園田先生の資料の P7

※園田先生の資料の P4 ⇒ 指導事項を達成していけるように、どこに、どのような内容を記すのかを具体的に大きく示した「言語活動モデル」を再び提示する。  
「言語活動モデル」を参考にして、「ファンタジーの窓」で紹介したい「いちばんの不思議」について、交流を重ねてはっきりした紹介したい内容を記入しているかの見取りと個別指導。

## 9. 自分が選んだ本の「いちばんの不思議ポイント」を隣のクラスの友達に「ファンタジーの窓」で紹介する。

※園田先生の資料の P8 ⇒ 単元のゴールで、個々の児童が本単元で学んできたことで成就感を味わえるような場の設定をすることが教師の大きな使命である。

